

里山に舞う光 心待ちに

6月初旬から7月中旬にかけて見ごろを迎えるホタル。「宮田ほたるの里を守る会」(津久井長吉会長)は年間を通してホタルと自然を守る活動をしている。

拠点は渋川市赤城町宮田。のどかな田園風景が広がる地域。帯は水源が豊かで「昔はどこでもホタルを見ることができた」と津久井会長。しかし、活動を始めたときにはわずか数匹が確認できただけだった。



▲丁寧に整備されたホタル池にカワニナの餌となるキャベツを落とす子供会員

活動開始から13年目を迎え、今では数百匹のホタルが夏の夜を彩るようになった。生殖地の草刈り、ホタルが車のライントで失明しないよう遮光ネットを張るなど年間を通してやることは尽きない。ホタルが舞う時期には「家でじっとしていられなくて」と、毎晩拠点に出掛ける会員も多い。

5月17日は30人ほどの会員が集まり、ホタルの幼虫の餌となるカワニナへキャ



MY GROUP

マイグループ

宮田ほたるの里を守る会

◀くりの甘煮を丸ごと乗せホタルの光を表現した「ホタルアイス」を手ににんまり。「ほたる饅頭」も好評発売中

▼浴衣や手ぬぐい、ホタルをイメージしたグッズも同会のオリジナル品

ベツなどの餌やりを行った。会員133人のうち、71人が地元の小・中学生。大人が「この水は100年前の雨だよ」と話すと「どうして?」と子供たち。会の活動に参加することでホタルの生態や自然の成り立ちが自然に身に付いていくようだ。また、「子供会員がいることで会の思いが次の世代に伝えられる。次へ、次へと、この環境はずっと守られていく」と津久井会長。



6月20日には同会主催の「ほたる祭り」が行われるが、ホタルには絶対に触ってはいけないしカメラのフラッシュも厳禁だ。事務局の星野信好さんは「ホタルだけではない、夏の夜、家族で夜空を見上げる機会を楽しんで」と話す。同会はこれからもホタル保護を中心に、人と自然を育み、未来につながる活動を目指す。

問い合わせ◇星野信好さん ☎0279・56・8803